

被災現場見て、怒り心頭

『企画に感謝』(別添感想より)

「7・11 原発被災地福島視察と交流ツアー」に満席の51名参加!

青空が広がる中を満員のバスは福島へと向かいました。バスの中でDVD「あやまれ つぐなえ なくせ原発・放射能汚染」を視聴。原発被害のリアルな実態、国と東電の無責任で冷たい姿勢、その中で未来を見据えて誇り高く運動を進めている人々のことが良く分かりました。いわき市で現地ガイド「原発事故の完全賠償をさせる会」の佐藤三男さんと合流。バスの中からを含め9か所を案内していただきました。



津波被害も甚大

最初に訪れた場所は四倉道の駅だけがポツンと建っていて、観光地で賑わっていた所だとは想像もつきません。陸に打ち上げられた船が一艘取り残されていました。警察の人が何人かで「今日は月命日なので」と不明者の捜索をされていました。第1原発から約30キロにある久之浜地区仮設商店街。元気なおばちゃんたちが入れてくれたコーヒーの味は忘れられません。

目に見えない放射能汚染の恐怖

福島の空も海も青色でしたが、長岡では0.03だった放射線量が福島県に入ると0.09→0.4→0.55→0.7と原発に近づくにつれ次第に高くなって行き、0.23以下という基準値を超える所がまだまだ多いことを実感しました。ふるさとに住むことも、近づくことすらできなくしてしまう原発事故。帰還困難地区手前の夜ノ森地区ではバスに乗ったままの視察でしたが線量計は最も高い値でした。



避難者訴訟の原告団長を務める住職早川篤雄さんのお話

宝鏡寺で、昼食の後伺った反原発活動40年の早川住職のお話は、

含蓄に富み深く心に残るものでした。「原発事故により過去、現在、未来の生活を全て奪われた」と穏やかな口調の中に憤りを込めて語られ、奪われたものの大きさとかけがえのなさを知りました。「原発大事故、チェルノブイリの次が日本だった。日本の次も日本ということになりかねない」との警告を忘れてはならないと思いました。

フレコンバッグの異様な光景

うず高く積まれた野ざらしの黒色のフレコンバッグ(除染廃棄物収納袋)の光景が延々と続きます。「劣化して放射能が漏れ出さないか」「いつどうやって処理するのか」と不安が募る。実り豊かな田畑だった所です。

原発ゼロへの思い、いっそう強く

帰りのバスの中で「人災だと感じた」「原発はゼロに」等沢山の感想が語られました。

ガイド佐藤さん、宝鏡寺住職早川さん、参加者のみなさん、ありがとうございました。

原発は人類と共存できない
署名を大きく
広げてくください

★ 9月議会まであと2か月をきりました。
★ 現在の署名数は2,078人分です。
★ 一万五千人以上の方から署名をしても
らうため、一層お力を貸してください。
★ 集まり次第事務局までお寄せください。
★ 署名用紙がない方はご連絡ください。

原発ゼロ長岡市民ネットニュース

第44号 2015年7月16日発行

連絡先 広井洋子 長岡市寿2-5-15

電話・FAX 24-2870

矢引 090-3063-6365 佐藤 090-4925-3707